

事務事業チェックシート

事務事業No 事業名
430 漁業者等支援事業（漁業協同組合の育成支援、魅力ある漁場の再生と後継者の確保）

[事業基本情報]

分野別目標	3	市民と地域がつくる元気なまち
政策	1	地域産業の振興
施策	4	水産業の振興
基本方針	4	漁業を取り巻く環境の整備・保全

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費	
	その他			
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務	
	その他			
会計・予算区分	会計		一般会計	
	款		農林水産業費	
	項		水産業費	
	目		水産総務費	
	大事業		水産総務事業	
	事項		漁業者等支援事業	

事業種別	継続	主な事務事業	
事業期間	H15 ~		
事業実施の根拠法令	和歌山市水産振興対策事業補助金交付要綱		
関連個別計画			
担当課・担当課長 (Tel)	農林水産課	山本 康造 (435-1049)	
関連課			

「3つの約束・44の約束」との関連性

3つの約束	産業を元気に	まちを元気に	人を元気に	非該当
	○			
44の約束				○

1 事業概要及び実施内容

事業概要	事業目的（「誰・何」をどういう状態にする」ための事業か）	事業内容				
	水産振興を目的とした各種団体に対し助成する。水産資源の増殖を目的とした放流事業等の運営に対して助成する。漁場の保全を自主的に図る各種団体への補助に要する諸経費。	和歌山市水産振興協力会補助金 漁業の近代化、漁場の利用調整等を図る各種団体の育成に要する諸経費 漁業協同組合が実施している各種放流事業に対する補助金				
実施内容		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		(資源対策補助金) ・おにおこぜ ・あわび ・さざえ ・なまこ ・あゆ	(資源対策補助金) ・おにおこぜ ・あわび ・さざえ ・たこ ・あゆ ・あさり	(資源対策補助金) ・おにおこぜ ・あわび ・さざえ ・たこ ・あゆ ・あさり		

2 事業コスト

事業費等 千円		平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		
		当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算	計画	決算	
	事業費	3,715	3,469	3,300	3,055	3,300		3,300		3,300		
	伸び率 (%)	-	-	-11.2%		0.0%		0.0%		0.0%		
	人件費	常勤職員	1,666	1,941	1,941	1,951	1,941		1,941		1,941	
		非常勤職員				0						
		小計	1,666	1,941	1,941	1,951	1,941		1,941		1,941	
	国庫支出金											
	県支出金											
	市債											
その他												
一般財源 (税等)	3,715	3,469	3,300	3,055	3,300		3,300		3,300			
所要人数	常勤職員	0.22	0.26	0.26	0.26	0.26		0.26		0.26		
	非常勤職員		0.00		0.00	0.00						
主な予算内訳		漁場整備事業補助金1,200千円、あわび増殖事業補助金315千円、さざえ増殖事業補助金210千円、たこ増殖事業補助金210千円、おにおこぜ増殖事業補助金210千円、あさり増殖事業補助金210千円、あゆ増殖事業補助金700千円										

3 目標及び実績

活動指標	指標名及び達成状況					平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	
	対象資源数					年度目標値	5	5	5	5	5
						実績値	6	6			
	単位	種類	全体目標値	5	全体目標達成度	120.0%	120.0%	120.0%			
							年度別達成度				
	漁場整備数					年度目標値	2	2	2	2	2
				実績値	2	2					
単位	団体(漁協)	全体目標値	2	全体目標達成度	100.0%	100.0%	100.0%				
						年度別達成度					
成果指標	要望事業数					年度目標値	9	9	9	9	
						実績値	10	9			
	単位	事業	全体目標値	9	全体目標達成度	100.0%	111.1%	100.0%			
							年度別達成度				
	単位					年度目標値					
						実績値					
単位					年度目標値						
					実績値						
単位					年度目標値						
					実績値						
単位					年度目標値						
					実績値						

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか		増加している	○	横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい		一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要はあるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない	できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか	○	達成している(90%以上)		おおむね達成(70~90%未満)	達成していない(70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度	○	重要かつ高い貢献度がある		一定の貢献度がある	貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し	○	適正		負担は求められない	見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実				
	現状維持			○	
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	<p>本市には加太漁協、西脇漁協、雑賀崎漁協、田野浦漁協、和歌浦漁協の5つの漁協があり、それぞれの漁協において一本釣、小型機船船曳網、小型機船底曳網漁業などが営まれている。</p> <p>近年の漁獲量の減少の原因となる水産資源量の減少、漁場環境の悪化等を防ぐために、それぞれの漁協からの要望で事業を行っており、今後も現状維持で妥当であると考えられる。</p>
「見直し」 「改善」案	<p>漁業者による自主的な水産資源管理と漁場環境の改善を行う事で資源量を回復し、漁獲量の増大を図る。</p> <p>また、今後とも漁協に対しての要望(魚種等)ヒアリングを実施し、種苗放流の増産、減産を効率的に運用していく。</p>